

10・21 安倍首相秋葉原演説会ルポ

標題は毎日新聞 10 月 24 日夕刊「特集ワイド」。ネットで異様な写真と映像を見て、なんだか肌寒くなってきた。残念ながら選挙後の報道だが、抜粋して紹介したい。

リードから一まとも圧勝した自民党である。安倍晋三首相の悲願たる憲法改正が、また一步近づくのか。首相の高揚感たるやいかばかりだろう。選挙戦ラストを飾る東京・秋葉原の演説会を見て考えた。

秋葉原といえば、人気アイドル AKB の発祥地であるライブハウス「AKB48 劇場」が鎮座する。そこへ、永田町劇場の主演、安倍首相が登場したのは 21 日午後 7 時半過ぎであった。駅前のロータリーに止めた選挙カーの上で手を振る姿に、詰めかけた群衆から声ならぬどよめきができ、雨に咲いた傘の花がうねる。会場を見渡せば、日の丸の旗が林立し、「頑張れ安倍総理」と大書した横断幕が視界を覆う。この集団を警察官が鉄柵やロープで囲い、衝突が起きないように警戒する。「安倍首相勝利のためにガンバロー」といったコールが起きたかと思えば、安倍政権に批判的とされるテレビ局のカメラマンに向けて「偏向報道はやめろー」「出て行けー」と怒声を浴びせる支持者の一群がいた。

ふと見れば、どこの団体のものか、「北朝鮮を殲滅せよ」との物騒な横断幕が加わっていた。会場の熱気はすごいが、この場の「求心力」になっているのは、安倍政権の政策への期待というより、旧民主党やメディア、外国への「敵がい心」であるかのような雰囲気すら漂う。…… 与野党の街頭演説をフィールドワークし、秋葉原にも来ていた駒沢大准教授の逢坂巖さん（政治コミュニケーション論）『路上の政治』に火が付きはじめた印象です。ナチスを生んだ戦前のドイツが頭をよぎりました」SNS の発展で、だれもが自由に感情を発信することが当たり前になりつつある。問題は、ルールが重んじられて機能する民主政治の世界にも、感情や言葉をぶつける場面が当たり前になりつつあることだ。逢坂さんの目には、むき出しの感情が敵意や憎悪を深め、民主政治が暴力に取って代わられた第一次大戦後のドイツの姿と重なる。

「近道はありません。地道に、民主政治のマナーを守ろうと言いつけるしかないですね。罵声や憎悪の応酬は、何も生み出さない。政治の場を荒らしてはいけません。その原点を真剣に、慎重にみんなで考えるべきです」

安倍首相も、勝利の美酒に酔ってばかりはいられないだろう。この社会を分断させているのが、首相自身の言動なのだから。



(2017 年 10 月 26 日)